

# 熟年を楽しむ

## 老人クラブ

二十一世紀の高齢社会。その主役は、まさに高齢者自身です。今月は、地域の中で仲間をつくり、趣味に、教養に、ボランティア活動に、日々の生活を楽しむ場「老人クラブ」の概要をご紹介します。



### 高齢者による自主組織

#### 「老人クラブ」

「老人と言われたくない」、「自分にはまだ早い」。老人クラブという言葉に、そんなイメージを持っている方もいるのではないのでしょうか。老人クラブは、戦後の社会変化の中、高齢者自らが新たな役割を求めて生み育ててき

た自主組織で、町内会など地域を単位としてつくられています。メンバーは主に六十歳以上の高齢者。市内では、今年四月現在、五百三十五団体で、約四万人が加入しています。老人クラブの活動は、娯楽・レクリエーション活動、教養や健康を高める活動、公園清掃や共同募金などの社会奉仕活動、声掛けや除雪の手伝いなど高齢者同士が助け合う

友愛活動など、多岐にわたります。

これらの活動を通して地域の中で仲間をつくり、とかく単調になりがちな高齢者の日々の生活に、めりはりを付ける。それが老人クラブなのです。

### 老人クラブへの

#### 加入率が高い清田区

メンバーにとっては、まさに「楽しみの場」となる老人クラブ。しかし、最近では、対象年齢の六十歳に達した人の中に、「老人」という言葉が抵抗となり、加入をためらっている人が一部いるのも事実です。

そうした中、清田区では、六十歳以上の高齢者のうち約19%が老人クラブに加入しています。これは本市全体の加入率約10%を大きく上回り、市内十区の中で最高です。趣向を凝らした特色ある活動で魅力アップを図り、その評判が新たな加入者呼び込む。区内には、そんな活発な活動を展開している老人クラブが多く存在します。

### 清田区の老人クラブの

#### 取り組み

そのうちの 하나가、平岡長寿会です。ゲートボールの練習に力を入れている同会では、その成果が実り、昨年、市の代表として全国高齢者のスポーツ・文化の祭典「全国健康福祉祭」（別称「ねんりんピック」）に出場しました。会長の坂野信義さかののぶよしさんは「ゲートボールだけではなく今年は防火や交通安全標語づくりに取り組み、会員の評判も上々」と話しています。

また、「豊かな人生経験を生かし高齢社会を楽しもう」と、さまざまな活動を展開しているのが、平岡梅ヶ岡悠々クラブひらがわきよかおほ（中川正雄会長）です。同クラブではカラオケやパークゴルフ、園芸など五種類のサークル活動への取り組みのほか、地域六カ所の公園清掃や研修のための旅行を企画するなど、その活動の充実ぶりには目を見張るものがあります。さらに、平成九年の設立以来定期的に発行してきた会報は、号外を除いて百二十号にも達し、情報を共有するこ



▲研修旅行を楽しむ平岡梅ヶ岡悠々クラブの皆さん

### 地域の仲間と

#### 「熟年」を楽しみませんか

地域の仲間と趣味を楽しみ教養を高め、心身ともに健康で「熟年」を過ごす。老人クラブにまだ加入されていない皆さん、気軽に地域のクラブに参加してみませんか。生き生きとした元気な笑顔が、皆さんを待っています。